

ミカン生育情報

千葉県
平成 28 年 12 月号

平成 28 年 11 月の気象

平成 28 年 11 月の半旬別気象は表 1 に示した。平均気温は、第 3 及び第 4 半旬を除く 4 半旬で平年より低かった。月平均は 11.9℃で、平年より 1.4℃、前年より 2.3℃低かった。11 月 25 日には氷点下を記録し、その日の日最低気温は、暖地園芸研究所で-0.4℃、館山測候所で-0.1℃であった（11 月の歴代 8 位）。

降水量は、第 2 及び第 6 半旬を除く 4 半旬で平年並みか上回った。月合計は 186 mmで、平年の 129%、前年の 78%であった。

日照時間は、第 2 及び第 4 半旬を除く 4 半旬で平年を下回り、月合計は 122 時間で、平年の 84%、前年の 98%であった。

表 1 平成 28 年 11 月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	13.3	15.4	14.5	20	20	19	22	25	34
2	11.9	14.9	16.8	10	35	42	28	25	16
3	14.2	13.9	14.4	57	19	85	16	24	12
4	13.1	12.3	16.0	54	25	37	26	24	18
5	9.7	11.6	13.2	32	21	40	14	24	12
6	9.6	11.5	10.2	15	25	14	16	25	32
平均/計	11.9	13.3	14.2	186	144	237	122	145	125

普通温州の果実品質

着色は平年よりも早い地点が多かった。糖度及び酸度は平年を下回った地点が多い。甘味比は三芳地区と千倉地区の「青島温州」で平年を上回った。今年度は浮皮の程度が前年よりも軽く、果肉歩合は、浮皮果の発生が多かった前年よりも高い。

表 2 普通温州の果実品質^{注1}（平成 28 年 11 月 30 日収穫、翌日調査）

品 種	調査地	着色程度		糖度(Brix)		酸度(%)		甘味比 ^{注2}		果肉歩合(%)	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
大津 4 号	三芳地区	7.3	8.1	9.9	10.0	0.92	0.88	10.8	11.7	76.4	75.3
	千倉地区	8.9	8.7	9.0	10.4	0.86	0.96	10.4	10.9	76.8	75.7
	暖地園研	8.2	8.0	10.2	10.0	0.98	0.91	10.3	11.4	80.0	74.7
青島温州	三芳地区	7.6	7.4	9.1	9.2	0.89	0.95	10.2	9.9	74.7	74.4
	千倉地区	8.2	8.2	8.9	9.9	0.79	0.97	11.4	10.4	76.4	74.1
	暖地園研	8.5	7.6	9.3	9.6	0.90	0.91	10.3	10.7	76.3	75.6
平 均		8.1	8.0	9.4	9.9	0.89	0.93	10.6	10.8	76.7	75.0

注 1) 平年値は平成 8～27 年の平均値

注 2) 甘味比＝糖度／酸度

ただし、暖地園試の青島温州は 12 月 1 日と 12 月 4 日に調査

果実の生育

果実の生育を表3に示した。前回調査から今回調査までの果実肥大量は平年並みであった。縦方向への肥大は、ほとんどみられなかった。果実の大きさは、平年を下回った品種・地点が多かった。

暖地園芸研究所内では11月下旬から、カラスの飛来が多くなった。中生及び普通温州に鳥害が多い。青かび・緑かび病対策のため早生温州に10月、普通温州に11月に殺菌剤を散布した。果実腐敗や落果は散見される程度で、前年よりも少なかった。

表3 果実の生育*¹（平成28年11月30日収穫、翌日調査）

種類・品種	調査地	横径 (cm)		縦径 (cm)	
大津4号	三芳地区	7.0	(95)	4.7	(93)
	千倉地区	7.3	(98)	4.6	(95)
	暖地園研	7.1	(92)	4.5	(87)
青島温州	三芳地区	7.2	(98)	5.0	(98)
	千倉地区	6.8	(92)	4.3	(86)
	暖地園研	7.8	(102)	4.9	(96)
川野夏橙	暖地園研	9.7	(101)	7.6	(99)
平均* ²	普通温州	7.2	(96)	4.7	(92)

注) () の数字は平年値（平成8～27年の平均）を100とした比数

*¹ 各地点の各品種の値は40果の平均 ただし、落果等により調査果実を変更した樹がある

*² 平均は「大津4号」及び「青島温州」の各地点の値を平均したもの

12月～3月の栽培管理

樹勢の回復 本年も樹によっては過着果になっている樹がある。着果により樹勢が落ちている樹には、収穫後に液肥を散布する。

マシン油乳剤の散布 カイガラムシ類とミカンハダニの防除のためにマシン油乳剤（97％）の60～80倍液を散布する。果実収穫後の12～3月の内、厳寒期を避け暖かい日に実施する。雨が降った後、樹皮が完全に乾いていない時に散布すると樹への影響は少ない。樹勢の弱い樹では散布を避ける。なお、ミカンハダニに対しては、寒害を受けやすい園地や着花量が少ない園地では4～5月に100～200倍液を散布する。防除にあたっては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

防寒対策 気象情報に注意し、適切な防寒・低温対策をとる。寒風を防ぐためには防風垣や防風ネットを設置する。冷気のたまりやすい場所は下枝を切り冷気を逃がす。特に幼木や中晩柑、レモンについては、寒さに弱い傾向があるため、十分注意をする。また、果実は寒害で食味が低下するため、袋掛け等の防寒対策をするか、収穫適期を迎えた果実は寒さに当たる前に収穫する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《生育情報の問合せ先》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>